

日本における「産業」の可能性を広げるために 農家としてのノウハウと社長自らの経験が、無二の“青汁”を生んだ

事業内容

1992年設立

- ・健康食品製造・販売
- ・太陽光発電電気事業
- ・農業（健康食品原料他有機栽培）
- ・受託加工等

知的財産権と内容

特許第6931437号	抗ウイルス溶液
商標第6427935号	Hotateino\ホタティノ
商標第6099924号	陽光桜
商標第5922580号	遠赤桜
商標第5123053号	遠赤青汁

他 商標権26件、特許権1件

(2025年1月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 高岡 照海さん

父の背中を見て「第一人者」を意識し 自社ならではの製品を開発

1992年の創業当初より、有機栽培原料にこだわった『遠赤青汁』等の健康食品や有機農作物の製造・販売を続けている当社。その原点は高岡社長の父が戦後に教師を退職し、「戦争で亡くなった生徒たちに、供養として桜を見せてやりたい」と、沖縄やシベリアなど、寒暖差が激しい地域でも美しく咲く桜を開発すべく、農業・造園業を始めたことにある。結果、25年かけて生まれた『陽光（ヨウコウ）』は、日本における桜の品種登録第1号という快挙を果たした。父の家業を手伝い、その背中を見て育った高岡社長は、「同じ道を行くなら、“日本で一番”“世界で一番”を目指さなければ生き残れない」と感じたという。そこで、自身が開発した『遠赤青汁』や『ホタティノ（抗ウイルス溶液）』において、製品の付加価値を高めるため、特許や商標を積極的に取得。それがブランディングにも繋がり、百貨店の催事等でも高い評価を受けている。また、海外展開についても事業開始当初から意識し、国際特許やSDGsなど広い視野を持って取り組んでいる。

自身の経験から 「手軽に野菜を摂れる商品を届けたい」と青汁を開発

そもそも青汁に目を向けたきっかけは、高岡社長が18歳で結核に倒れたことだった。当時の抗生物質は副作用が激しく、頭痛や胸痛などに苦しんでいたため、他

に打つ手はないものか悩んでいたという。そんなある日、ふと本棚に並ぶ医学書を開くと、「食のバランスが大切」という趣旨の文章が書いてあり、野菜不足かもしれないとヨモギやドクダミ、ハコベラなどを丸ごとすり潰したものを3食摂るようにした。すると徐々に体調が改善。医療だけでなく日々の食生活も重要なのだと実感したそう。そこからは10年ほど様々な植物を試し、最終的に辿り着いたのが、『遠赤青汁』の原料である「ケール」だった。『遠赤青汁』は遠赤外線を利用した独自の製法により、無農薬・無添加で細かく粉碎されているのが特徴で、この製造方法は国内・国際両方の特許を取得し、大手企業からも注目される技術となっている。「世界で通用する製品を作るためには、スピード感を持って国際特許にも積極的に取り組むことが大切だ」と高岡社長は語った。

大学とも連携し アルコールフリーの消毒液も生み出した

当社が特許を取得した製品としては、2020年に出願した『ホタティノ（抗ウイルス溶液）』にも注目したい。これはコロナ禍に開発された感染予防水溶液で、100%天然素材にこだわっており、手荒れ防止・アルコールアレルギーの方でも問題なく使用できるのが魅力だ。ホタテの貝殻を活用するため、当初は磯の香りを緩和するのに苦労したと言うが、自社で栽培した桜の葉やケールの成分と併せることでその課題を解決。

こういった化学的な知見を必要とする製品の開発においては、高岡社長の長年の経験に加え、愛媛大学や静岡大学といった教育機関とも連携している。高岡社長は「商品の信頼性を高めるには、研究結果などのエビデンスが重要」と考えており、その効果を証明するための臨床試験にも力を入れている。また、「特許を取っている、と言えば素早く良さが伝わる」と、顧客の関心を惹く上でも知財の価値が身に染みる部分もあると語った。

知財取得・活用における苦悩



知財に関しては門外漢だったため、どこから学ぶべきか分からず戸惑った面もある。しかし、INPIT（知財総合支援窓口）を訪ね、専門家や弁理士との相談会で適切なアドバイスを受けられたことが、スムーズな取得に繋がった。また、一時はメディアへの露出等により知名度が急激に上がったことで、製品の模倣被害を受けた経験もある。「似た商品が続々と登場して競争状態になると、

最終的にはオリジナル自体の魅力も伝わりにくくなる、と痛感した。急速に成長させるのではなく、地道に販路を拡大していくことが大事だと理解し、それ以降は確実に事業を進めて今に至る」と高岡社長は語った。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「とにかく自分で動いてみる。やりたい事業の問題点を解決するために何が必要かを考えていたら、自然と頼れる機関にたどり着けると思う。日本はまだ知財に関する補助が少ないが、制度を上手く活用すればコストを抑えることもできる」と高岡社長は話す。また、「業界の将来を考えても、ぜひ国際特許にも挑戦し、海外の市場を視野に入れるべきだと思う。政府も企業も保守的になりすぎず、攻めの展開を行うことが日本全体の成長にも繋がっていく。私も自社の取り組みをモデルケースとして全国に広げ、日本市場を盛り立てる一因となるよう努力を続けていきたい」とも併せて語った。



主力製品である『遠赤青汁』は、粉だけでなく飲みやすい粒タイプも用意されている



ホタティーノは業務用のほか、持ち歩き需要に配慮したスプレータイプを開発

一般とは別の視点から考え 自社に必要なものを身定める眼力と行動力

当社は原料から自社栽培を行っているが、その土地は基本的に「耕作放棄地」を活用している。遠赤青汁に使用するケールを育てるにあたり、高岡社長は地元から20km離れた西条市に目を付けた。水が綺麗で水害にも強い土地というのが理由だったも

の、当初はジャングルのような状態で、現地民からも農地にするのは無理だと言われたそう。しかし、高岡社長は「まっさらな土壌は有機栽培にぴったりだ」と、造園業の経験も活かし根気強く耕し続けた。そして、今やその農地は大きく広がり、「うちの土地も使って欲しい」と声が上がるまでになった。このように先々を見据えて投資し、着実に目標へ向かう姿勢が、知財の取得や活用にも大いに活かされている。

COMPANY DATA

取材：2025年1月

企業名：遠赤青汁株式会社 所在地：愛媛県東温市則之内甲2225-1 電話番号：089-966-6601

URL：<https://www.enseki.jp/> 創業：1992年 資本金：5500万円 従業員：20名

